

『あなたの真価』
～不都合に打ち勝つ～

I ペテ 3: 9～17
ローマ 12: 10～21

あなたはいざという時にどういふ決断をしているのでしょうか。私たちは不都合なことがあると人に指を向けてしまいます。それはアダムとイブからはじまり次の世代では兄であるカインが弟のアベルを殺してしまいました。あなたは目の前で不都合が起きたとき、どういふ対処をしていますか。問題を起こした時に、それを悔いるのではなくてどういふ罰を受けるかを心配したり、叱られたりすることを恐れていないでしょうか。立てられた権威を恐れるのは何らかの恐れる理由があるからです。私たちは目の前の真実が不都合であると過ちを犯しやすのです。しかしそこで私たちの真実の価値(真価)が問われるのです。良いときによいことをするのは当たり前です。あなたはあなたの行動が特に悪いときにどういふ卑怯なことをしているか考えなくてはいけません。マンデラ大統領は南アフリカを変えました。一人の人が変えた・・・それは彼が不都合な真実があるときに屈しなかったからです。あなたは今屈せずに行動できていますか。あなたがしなくてはいけないことをしていく中で不都合が生じたときに「叱られるかも」と思うような弱い人であってはいけません。私たちがしなくてはいけないことはその問題を解決することです。その問題を神様によって解決するから『不可能を可能に』なのです。不都合は解決しにくいものですが、あなたの行動によっては解決することができるのです。しかしあなたが逃げたり、人のせいにして黙っていたりということを繰り返しているとあなたの問題はもっとももっと大きくなって何をしても失敗します。罪は失敗ではなく、悪いとわかっていて逃げることです。誰でも罪は犯しますが、犯し続けていないかどうかを見ていなくてはいけません。そのためには自らが正しくないといけません。正しいとは自らの弱さを知り、問題が訪れたときにその問題を解決しようという力があるかどうかです。そしてあなたが一度でも逃げたらあなたのその行動で人がつまづくのです。「ネバーエンディングストーリー」という映画に「悲しみの沼」(悲しみがあると沈んでしまう沼)が出てきます。その沼に主人公が連れていた馬は沈んでしまいました。しかし主人公は沈みかけていましたが、希望を失わなかったので沈みませんでした。沼には底がありません。あなたの目の前に問題がきたときに逃げてしまうとは沼に沈んでしまうことです。問題がきたときにあなたならどうしますか。(I ペテ3: 9～)(ローマ12: 10～21)真価を問われるのはあなたの問題が起きたり、嫌なことを言われたり、気持ちの悪いことが起こったときです。あなたの不都合が起きたとき、正しい判断をしていますか。逃げずに問題に立ち向かっていますか。アブラハムやモーセも怖くなってして失敗をしたことがあります。サウルもそうです。でも私たちも繰り返しています。サウルが失敗を犯したのは神との真価が失われていたからです。調子が良い時祈れるのは当然ですが、悪いときにも同じように神の前に出てきちんと自分を保っているのでしょうか。「あなたはいつも変わらないね」と周りから評価されなくてはいけません。誰にでも弱さがあります。しかし人の前に行きたくないと思うようなことがあったとしてもその根底を変えてはいけません。どんな苦しみも苦しみのままで終わりません。それが神の約束です。弱さを持っていることを裁いているではありません。その弱さを自らで戦わなくてはいけません。あなたの心の監督者はあなたです。弱い心が出たときにいかに自らで弱い感情を奮立たせるかです。人のせいにする、逃げてしまう、力に訴えてしまう、ねじふせてしまう、あなたはそんなことをしてはいませんか。こいつわけて言い訳を考えていないでしょうか。それがいけないのです。主の懲らし目を受けて弱り果ててはいけません。失敗を逃げる人ではいけないのです。失敗や、問題、正しくないことが起きる、これは必然です。誰のせいでもありません。あなたの問題です。その時に自らを守ろうとするから最後には全てを失うのです。正しい対処をしていれば言い訳なんてする必要はないのです。そして責められて責任転嫁をしてしまうのです。イエス様は責められても何も言わなかった、そして十字架上で「彼らの罪を赦してください」というから映画になり三大聖人と言われているのです。あなたがしなくてはいけないことを忘れないで下さい。そして悪い時ほど、正しい言葉を言うようにしてください。よい時に人をつまづかせるより、悪い時に人をつまづかせることのほうが大きいのです。あなたが屈して人のせいにしてあきらめたり、問題を起こさず、せこく生きたりするのは簡単です。でも問題に挑んで乗り込んで解決していくから答えがあるので。イエス様はいつもそうでした。あなたは失敗を恐れる人生ではなく、逃げずに進む人生を送ってください。一時は取り去られるような屈辱を受けるようなことがあります。『悪をもって悪に報いず、侮辱をもって侮辱に報いず、かえって祝福を与えなさい。』(I ペテ3:9)です。実のならない時期に実を結ぶためには あなたの立場が悪くならたら、どう出ているか考えてください。実を結ぶ時期ではないいちじくの木に対して、「実のならない木は枯れてしまいなさい」とイエス様は言いました。本来いちじくはイスラエルですが、教会時代の今はいちじくの木はあなたです。実らない時期に実をならせないといけません。「あなたがたがわたしを選んだのではありません。わたしがあなたがたを選び、あなたがたを任命したのです。それは、あなたがたが行って実を結び、そのあなたがたの実が残るためであり・・・」(ヨハ15: 16)神様があなたを選んだのはどんなときも実を結ぶためです。愛があればできるのです。愛に時はありません。人には収穫の時なんてありません。①最悪から実を。最悪の状況で言う言葉や判断で実が残るかどうかが決まるのです。悪い時に悪い態度をとっているのであればクリスチャンではありません。これまで最悪の時どういふ対処をしているか考えてください。それに対してつまづいている人がいるはず。この解決はあなたが変わるしかありません。今まで最悪でも今日から変わればよいのです。あなたが隠れているとき、弱い人といふ時、失敗したとききちんとしていればよいのです。そういう人は普段もきちんとしています。(I ペテ3: 9～11)言い訳したり嘘をついたりしないでください。ミスをする人は隠します。隠さず解決してください。責められた言葉や態度に腹を立てないようにしてください。②敵に愛を。(ローマ12: 14～21)「悪に負けてはいけません。かえって、善をもって悪に打ち勝ちなさい。」(21)善で悪を迎え撃たなくてはいけません。聖書からイエス様がどういふ人生を歩んだのか、正しい人、悪い人がどう生きたのか学んで下さい。③報いるのは神。あなたが仕返しをしてはいけません。「互いに一つ心になり、高ぶった思いを持たず、かえって身分の低い者に順応しなさい。自分こそ知者だなどと思てはいけません。人を優れたものだと思いなさい」(ローマ12: 16)イエス様にあって楽しい人でなければいけません。妥協するのではなくどういふ状況であってもいつも自分は正しく貫いていけばよいのです。私たちは自分の価値観に当てはまらないからと人を裁いてしまいますが、弱いものに順応しなさいとあります。順応とはイエス様がしたことです。模範にならなくてはいけません。(ローマ12: 17～19)あなたしか救いに導けない人なのに裁いてしまうのです。罰は神が与えることです。あなたが裁いてはいけません。あなたの過去を責めているではありません。二度と同じ過ちを繰り返してはならないと言っているのです。あなたが変わればあなたにつまづいた人が変わります。悪魔は「失敗したら怒られるぞ」とあなたを緊張させますが、緊張する必要はありません。責められたら「私が悪かった、でも一緒に解決しよう(解決してください)」と言えばよいのです。あなたが悪かったときに正しくいけばよいのです。実を残しましょう。今までの過去を捨てて、今日から正しい判断に基づいて、特に問題が起きた時に、よいことを行える人になっていきましょう。(要約者: 岩崎祥誉)